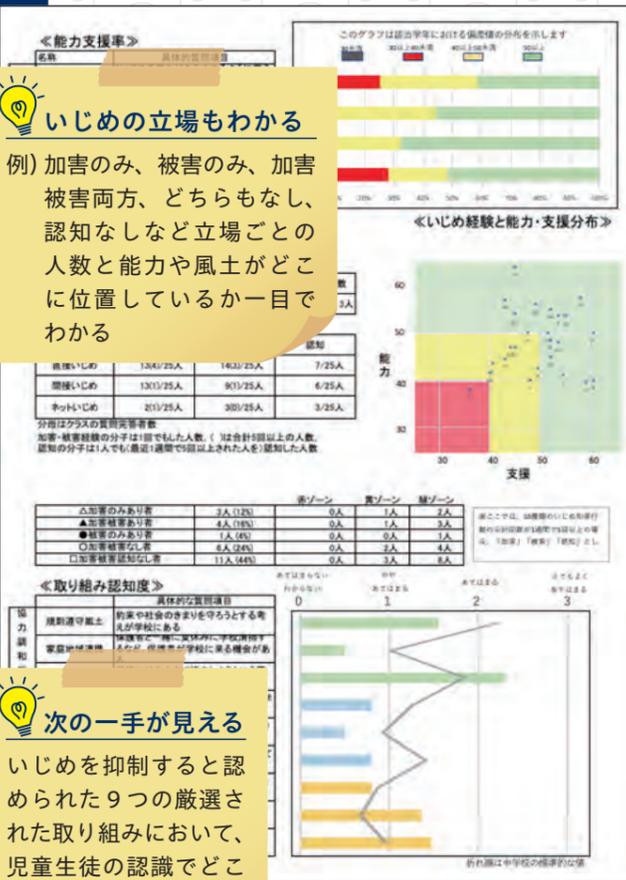


B-SAFE出力画面イメージ

1 学級の状態(能力や風土)がわかる



次の一手が見える

いじめを抑制すると認められた9つの厳選された取り組みにおいて、児童生徒の認知でどこが少ないかが一目で分かり、次に何を取り組んだらいいかのヒントが得られる

2 学級全体で注意すべき児童生徒が誰でもどこかが一覧でわかる

能力偏差値・支援偏差値は40未満の部分は赤色、30未満は灰色で塗りつぶしています。教師の認知とズレがないか個人を確認してください。

加害・被害頻度については、5回以上を5として、ネットのみ4行動、他は3行動の合計、つまり直接・間接は15が、ネットは20が最大値です。5以上の数値(平日5日毎日1回以上)を、注意喚起のために黄色で塗りつぶしています。個人を確認し、声をかけるなど配慮が必要です。

認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか?」と注意すべき人数で、のべ合計人数を示しています。いじめは教師が気づきにくいので、この数値が多い個人を確認し、聞けるようでしたら話を聞くなどの対応が推奨されます。

番号	能力偏差値		支援偏差値		加害頻度			被害頻度			認知頻度		
	いじめ	他	教師	本人	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
1	52	55	49	47	0	1	0	3	2	0	3	1	0
2	62	50	54	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	69	59	49	41	2	0	0	1	0	0	3	0	0
4	59	59	59	62	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5	44	30	43	38	0	6	6	0	0	0	3	0	0
6	50	47	54	50	3	1	0	2	0	0	0	0	0
7	45	51	59	50	2	0	0	1	0	0	0	0	0
8	34	51	46	53	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9	56	51	57	50	5	0	0	6	0	1	0	0	0
10	47	47	41	47	8	11	9	3	0	0	2	1	1
11	37	59	51	56	0	0	0	1	1	0	2	0	0
12	47	43	54	50	0	2	0	0	1	0	0	1	0
13	50	39	54	32	0	0	0	8	1	0	0	0	0
14	53	47	51	44	2	1	0	2	0	0	1	1	0
15	56	59	57	59	1	2	0	0	1	0	0	0	0
16	59	51	54	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	40	52	59	59	2	0	0	0	0	0	0	0	0
18	59	55	51	35	0	0	0	1	4	0	0	0	0
19	53	59	59	44	5	2	0	5	4	1	0	3	0
20	53	59	51	47	1	3	1	1	1	0	0	0	0
21	53	55	43	47									
22	47	47	46	44									
23	56	51	51	59									
24	40	43	38	44									
25	53	47	62	59									

認知のゆがみ?

クラスで目撃者も被害者も全然いないのに、一人だけ被害・目撃が多い場合など、敏感だったり認知のゆがみがある要配慮な児童生徒が見つかる可能性も!

学校適応感尺度(ASSESS)

適切な支援は的確な理解から!

学校適応感尺度(ASSESS)の強み

- ✓ 学校外の危険因子の可能性も予測!
- ✓ 個別と学級の様子が一目でわかる!
- ✓ 同年代の子どもの数値と比較した偏差値を算出 → 少人数や小規模校でも正確に状態が把握できる
- ✓ でたらめ回答・注意散漫・LDなどの可能性も見抜く
- ✓ アンケート項目は34項目だけなので実施が短時間

学校適応感尺度(アセス)とは

学校環境適応感尺度「アセス」(ASSESS: Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)は、子どもたちの学校における適応感を多面的に測定するためのアンケートです。全体的な適応感である生活満足感や、教師や友人からのサポート、向社会的スキル、学習的適応、さらに被害感がないかという非侵害感の6つの観点から構成されています。

学校適応感とは子どもたちの主観ですので、教員の日常の見立てと異なる結果になることもあり、両者を合わせて考えることでよりキメの細かい支援が可能となります。

不登校予防として、いじめや孤立の把握や教師の支援の仕方を振り返るのに大変効果的です。



学校現場で選ばれています!

分析サポート

- ✓ 3つのシートでクラスがわかる
- ✓ いじめ対処だけでなく、予防も支援
- ✓ B-SAFEの使い方ビデオ(全体編)(有料)



アセスが生まれた経緯

元高校教師で小中学校の学校現場からも相談や研修依頼を受けていた当法人の代表は、当初から既存のアンケートでは「コストが高い」ことや「すぐに結果が出ない」「学校外の影響がわからない」など課題・限界を感じていたことが開発の経緯です。

なぜ今アセスなのか

学校現場では世代交代が大きく進む一方で、子どもたちのニーズは多様化し、いよいよ子ども理解・学級理解の能力は担任教師一人に任せるべきではない時代になりました。担任の日々の感覚と合わせて、客観的な指標としてのアンケート調査が必要です。

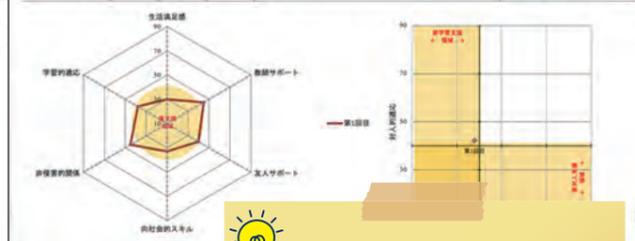
初任者の頃から毎学期、アセスを活用した学級経営を行っています。私はアセスを活用することで、学校以外での子どもの姿を知ることができ、保護者との連携にも役立てています。学校では楽しそうなのに、生活満足感が低い子どもの原因は何かを面接などで探るきっかけに、アセスが一役買いました。アセスを活用する際、特に1学期がとても重要でした。それは、前担任が転動していない際など、子どもの様子を詳しく聞けないため、教師への不信は無いが、友達と上手くいっているか、などをアセスを使って把握できるからです。

(大川市立川口小学校 江藤 悠先生)

アセス出力画面イメージ

1 個別の結果が数値と図でわかる

項目	項目名	項目値	最終項目コメント	最終項目特徴
生活満足感	39		生活全般への満足感がやや低くなっています。生活や勉強の達成感を振り返りましょう。	生活全般において達成感や満足感を感じていない領域が、偏りなく見られます。
教師サポート	45		特になし。	教師の支援が平均的であり、偏りなく見られます。
友人サポート	40		特になし。	友人からの支援が平均的であり、偏りなく見られます。
向社会的スキル	33		友だちにかかわる力がやや弱くなっています。友だちとの関わりを振り返りましょう。	友だちとの関わりが平均的であり、偏りなく見られます。
非侵害的関係	45		特になし。	非侵害的関係が平均的であり、偏りなく見られます。
学習的適応	38		学習への達成感や自信がやや低くなっています。学習の様子を振り返りましょう。	学習の様子や達成感が平均的であり、偏りなく見られます。



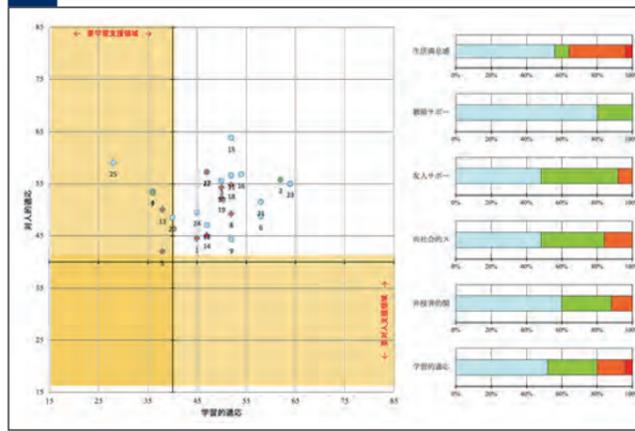
形から特徴もわかる
例) 上と下が凹んでいると学校より家庭に課題があるかも

3 学級全体で注意すべき児童生徒が誰でもどこかが一瞥でわかる

番号	メモ	生活満足感	教師サポート	友人サポート	向社会的スキル	非侵害的関係	学習的適応	Grit項
1		50	49	48	45	37	45	1.5
2		33	59	52	57	55	62	0.8
3		54	54	48	55	57	50	0.5
4		50	55	61	54	44	36	1.3
5		30	45	40	33	45	38	1.0
6		52	47	47	49	52	58	1.0
7		42	56	47	52	57	36	0.8
20		52	55	45	52	46	40	0.5
21		60	53	54	47	52	58	0.5
22		31	48	48	49	53	47	0.5
23		55	54					
24		52	55					
25		83	55					

個別支援か集団支援か
注意すべき児童生徒の数がすぐわかるので個別支援だけではないか、集団支援が必要かすぐ判断できる

2 学級の分布状況が一目でわかる



4 特徴と対応案をまとめて表示

学級診断シート

基本的な読み方

- 色は偏差値 50～、■は 49～40、■は 29～30、■は 29 以下を示しています。
- 全体に占める割合は、■:50%、■:33%、■:14.5%、■:2.5% 程度です。
*学級編成により、多少のばらつきは生じます。
- 領域が広いほど、学級の状態が良好であることを意味します。
- 領域が広いほど、学級の状態がハイリスクであることを意味します。
- 偏差値 39 以下は、その分野において、SOS を教師に発信していると考えられます。

【個人についての結果】

- 偏差値 39 以下の領域があるのは、No.○、○、▽、□、☆の《 》名です。
- 生活満足感が 39 以下なのは、出席番号☆です。39 以下の分野が 2 つ以上あるのは、No.▽、□の《 》名です。生活満足感が「生活全体がうまくいかない」と感じているので、39 以下が 1 分野であっても適応状態がかなり苦しい状態です。また、2 分野以上またがって 39 以下の場合は、当然、SOS の状態は非常に強い可能性があります。
- 1 分野だけが 39 以下は、No.○、○の《 》名です。1 分野であっても何かで問題にぶつかると、状態が一気に悪化する可能性がありますので、注意が必要です。
- 適切な回答をしていないと考えられるのは、出席《 》名です。

考えられる可能性と対応

- 生活満足感が低い No.☆や、複数領域にわたって□は、ストレスや不満足感が非常に高い状態にあり、いっしょに行動化してもおかしな、危険状態にあります。緊急なサポートが必要です。

【学級についての結果】

《生活満足感》・・・領域が 60% を超えており、領域も平均を下回り、よし状態と考えられます。
《教師サポート》・・・平均的です。
《向社会的スキル》・・・領域は平均的ですが、領域も平均を上回り、課題があると状態と考えられます。
《友人サポート》・・・領域が 40% を下回り、領域も平均を上回り、学級と個人に課題があると状態と考えられます。
《非侵害的関係》・・・領域が 40% を下回り、領域も平均を上回り、学級と個人に課題があると状態と考えられます。

これ1枚でプロの見立て
プロが見立てる観点で考える配慮事項や児童生徒を示し、マッチする対応案をAIで選出して表示

より良い学級のための尺度 (B-SAFE)

いじめ対処も予防も支援する

より良い学級のための尺度 (B-SAFE) の強み

- ✓ ネットいじめも把握！（不要の場合は、12項目削減可能）
- ✓ 個別と学級の状況が一目でわかる！
- ✓ 同年代の子どもの数値と比較した偏差値を算出 → 少人数や小規模校でも正確に状態が把握できる
- ✓ いじめがない学級でも予防すべき点の有無がわかる
- ✓ アンケート項目は最大55項目と少し多め → 「いじめの実態」「支援すべき点」「支援方法」がわかる

B-SAFEとは

B-SAFEは、より良い学級のための能力と取り組み、友人や教師、経験に関する質問紙（scale for Better class on Skills, Actions, Friends/teachers and Experiences. : ビーセーフ）の略称です。

いじめの実態把握だけでなく、対処したり予防できることを意識し、子どもたちが元気に生活できることを目的として、「子どもたちの状態」「子どもたちのいじめに関する経験」「学級の取り組み」を尋ねています。

B-SAFEは、全部で55問の質問からなり、比較的短時間（10分程度）で実施できます。

いじめが起きていなくても学級の状態から危険性を予期できたり、具体的にどう言った取り組みが必要そうかわかるのが特徴です。

日本のいじめの現状

2013年にいじめ対策防止法が施行され、いじめ実態把握アンケートは広く実施されるようになりましたが、依然としていじめの認知件数は増加傾向にあります（文部科学省、2021）。

なぜ今B-SAFEか

いじめ対策防止法が施行され、いじめ実態把握アンケートは広く実施されるようになりましたが、まだ依然としていじめが減っていません。それは、実態把握だけでなく、何が足りないのか、どこを伸ばしたらいいかが分からないからです。B-SAFEは各種のいじめ行動と関連が深い特徴を多面的に尋ねています。

B-SAFEが生まれた経緯

いじめ自死が起きた教育委員会からの委託で、3年がかりでいじめ実態把握及び対策を検討しました。その際、海外で実績をあげている取り組みを参考にし、国内の2000人を超える子どもたちや保護者、教員に調査協力いただき、B-SAFEの今の形に至りました。



気になる子
なんだけど...

学校現場で選ばれています！

いじめは、どの子どもにも起こり得るものとしながらも、教師はつつい「いじめがなければいい」と思いがちです。B-SAFEの実施によって、こうした教師のバイアスを排除した客観的な視点が得られ、教師の日常的な観察や関わりと併せることで、いじめの被害・加害のハイリスク生徒の存在や学校の取組課題等が明らかにになります。

(山県市立美山中学校
大畑 祐司 校長先生)

分析サポート

- ✓ 4つのシートでクラスが見える
- ✓ 調査結果を入力後、その場で結果がわかる
- ✓ アセスの使い方ビデオ (全体編・学級編・個人編) (有料)

